



JAPAN SOCIETY OF BREAST HEALTH Annual Report

乳房健康研究会 アニュアルレポート 2021 設立20周年。2030年に向けて新たなスタート

CONTENTS

はじめに

2020活動：20周年事業 Global Conference on Breast Health開催

1. ピンクリボンアドバイザー制度の充実
2. ピンクリボンアドバイザーによるがん教育
3. コミュニケーション強化と的確な情報提供
4. 関連NPO団体や企業との連携“ピンクリボンネットワーク”

乳房健康研究会のあゆみ2000～2020年

乳房健康研究会を支援するプログラム



はじめに

いま日本女性の9人に一人が乳がんにかかるといわれ、乳がんの増加とともに乳がんで亡くなる方は増えています。

乳がんは予防することはできませんが、早期発見であれば90%以上が治癒します。自己検診を行い、マンモグラフィなどを用いた精度の高い検診を受けると、早期乳がん発見率が高まります。

2000年春、私たちは乳がん早期発見による死亡数低下を目指して、乳房健康研究会を設立しました。セミナー、出版、ピンクリボンバッジ運動、ウオーク&ラン大会など社会性の高い事業活動を続け、2003年2月、日本の乳がん啓発団体としては初めて特定非営利活動法人(NPO法人)の認証を受け、2011年4月には認定NPO法人の認証を受けるに至りました。

乳がんによさしい社会、をめざして

乳房健康研究会は、2020年に設立20周年を迎えました。

この20年間の乳がん医療の発展はめざましく、それぞれの人の乳がんの特徴に応じた個別化治療が少しずつ確立されてきました。乳がん検診においても、乳がんリスクの評価や、それに基づく個別化検診が検討され、一部の国では、対策型検診とは別の形で実施されつつあります。

この世界の潮流を学ぶため、乳房健康研究会20周年と、中村清吾副理事長がセンター長を務める昭和大学病院ブレストセンター10周年の記念事業として、Global Conference on Breast Healthを共催しました。

このカンファレンスで得た学びを活かし、乳がんによさしい社会を目指して、ピンクリボンアドバイザーを中心に、ピンクリボン活動の新たなステージを目指したいと考えています。

認定特定非営利活動法人 乳房健康研究会

2020活動トピックス

乳房健康研究会は設立 20年を迎えました

「乳がんの早期発見、早期治療による死亡率の低下」を目指し、2000年に誕生した当会が20周年を迎えた。新たな10年を見据え活動目標を掲げる一方で、新型コロナウイルス感染症パンデミックが猛威を振るう中、新たにWEBを用いた活動に本格着手。「乳がんを正しく理解し一人によりそう社会の実現、乳がんで命を落とす人を2030年までに1万人以下にする目標にむかって、新たな一歩を踏み出した。

1. 20周年記念事業 Global Conference on Breast Health



❁ 20周年記念 Our Challenge for 2030: Stop the rise of breast cancer deaths in Japan [特設サイトへ](#)

乳房健康研究会20周年 × 昭和大学病院プレストセンター10周年 記念企画

Global Conference on Breast Health

アンコール配信 (再放送)

2021年 1/10 [日] 前編 19:30～20:30 (約60分)	2021年 1/11 [月・祝] 後編 19:30～21:40 (約2時間10分)
---	--

2. ピンクリボンアドバイザーによるがん教育



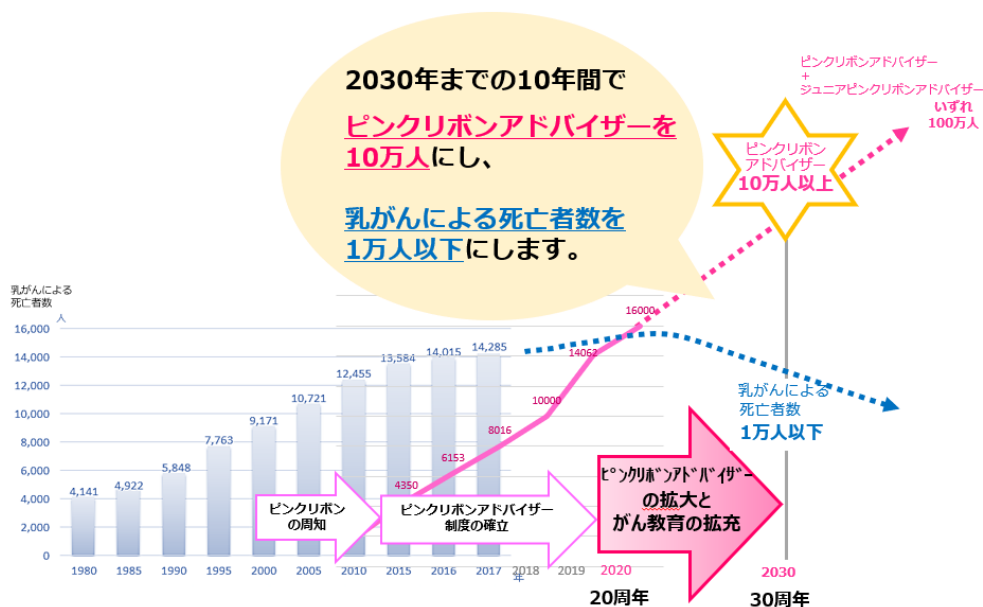
3. ピンクリボンアドバイザー認定試験結果



1. Global Conference on Breast Health

乳房健康研究会20周年を迎え、これから先10年の企画にあたって

これからの10年の活動を見据えて、大きな目標を掲げた。ピンクリボンの認知率は90%を超えているものの乳がん罹患患者数は年々増え、乳がん死亡者数は増加している現状。2030年までの10年間でピンクリボンアドバイザーを10万人にし、乳がんによる死亡者数を1万人以下にする目標を掲げ、記念事業としてGlobal Conference on Breast Healthを開催した。



開催は中村清吾先生副理事長のがセンター長を務める、昭和大学病院プレストセンターが開設10周年との共催とした。新型コロナウイルス感染症のパンデミックが世界中に甚大な影響を与えている事を考慮し、WEB開催となった。世界をリードしている先生方に、各国の考え方や取り組みを伺い、個々の発症リスクに応じた検診の在り方を議論。締めくくりとして、理事長の福田護より共同宣言を発出した。

Global Conference on Breast Healthの共同宣言 Joint Declaration of Global Conference on Breast Health

高濃度乳房およびHBOCに対して個別化検診が必要である

Personalized breast cancer screening is necessary
for a dense breast or HBOC



また、同日、ピンクリボンアドバイザーアニュアルミーティングピンクリボンアドバイザーアワード2020も開催し、全国各地のピンクリボンアドバイザーのさまざまな活動事例を学んだ。

Global Conference on Breast Health



Our Challenge for 2030:
Stop the rise of breast cancer deaths in Japan

設立以来、当会が目指していた検診は、対策型検診であり、マンモグラフィ検診の受診率向上に力を注いできた。20年が経ち、欧米、アジア諸国では乳がん検診でも「個別化医療」が従前となっている。日本女性は高濃度乳房の比率が高いことが知られるようになり、遺伝性乳がんの検査が保険適用となり、「個別化検診」に向かう時代となった。各国の取り組みを学び、議論し、日本における個別化検診の実現に反映させたい。

■2020年11月3日(火・祝)

■がん研究会有明病院吉田記念講堂からWEB発信

■参加者数 500名

■座長

中村 清吾(昭和大学病院 乳腺外科教授/プレストセンター長、認定NPO法人乳房健康研究会副理事長)

大野 真司(がん研有明病院 副院長/乳腺センター長、認定NPO法人乳房健康研究会副理事長)



■ビデオメッセージ

Joseph Cappello(アメリカ) Director/Co-founder of Are You Dense. Inc.

■基調講演 演者

①中島 康雄 (画像相談クリニック院長 聖マリアンナ医科大学名誉教授)

講演タイトル: Japanese breast cancer screening and current initiatives of

Japanese Association of Breast Cancer Screening

②Chiun-Sheng Huang (Professor of National Taiwan University)

講演タイトル: How to deal with dense breast in Taiwan

③Bruce Mann (Professor of The University of Melbourne)

講演タイトル: How to deal with dense breast in Australia?

④Michale Douek (Professor of University of Oxford)

講演タイトル: Breast Screening in High Risk Women

⑤Ava Kwong (Professor of The University of Hong Kong)

講演タイトル: Management options for mutation carriers

⑥Sung-Won Kim (Founder of ABRCA (Asian HBOC Consortium))

講演タイトル: Ideal screening method for high risk women especially
BRCA carriers in South Korea – from KOHBRA study

⑦Emiel Rutgers (Professor of The Netherlands Cancer Institute)

講演タイトル: Screening of women at increased risk: the role of MRI, results
of the Famrisk study

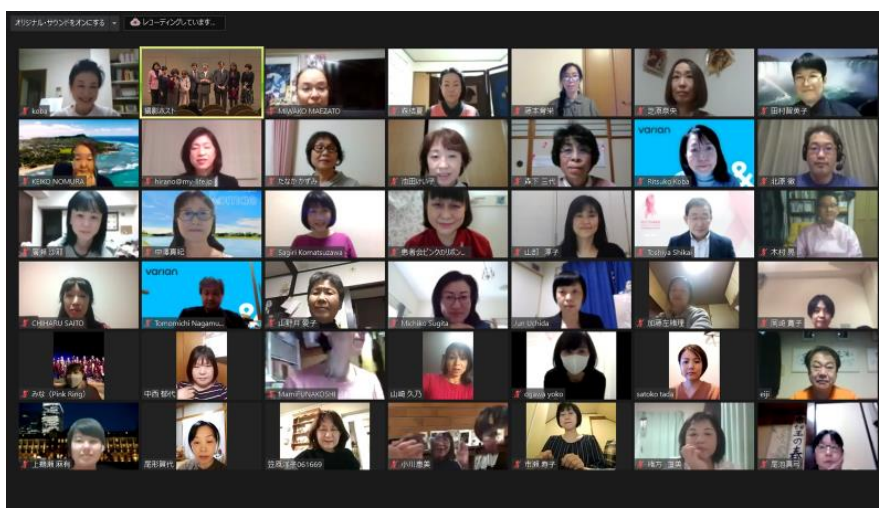
⑧山内 英子 (聖路加国際病院副院長・乳腺外科部長)

講演タイトル: Current practice and future perspective for HBOC in Japan



■パネルディスカッション スペシャルスピーカー

植松 孝悦 (静岡県立静岡がんセンター 乳腺画像診断科兼生理検査科 部長)



ピンクリボンアドバイザー アニュアルミーティング2020 活動発表



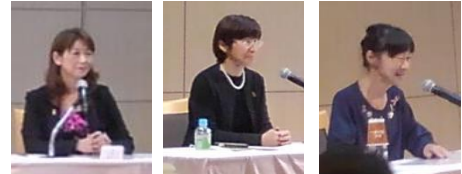
Our Challenge for 2030:
Stop the rise of breast cancer deaths in Japan

全国各地のピンクリボンアドバイザーのさまざまな活動事例を学ぶ。
賞の決定は参加者全員によるFacebookグループに寄せられた感想と乳房健康研究会理事による審査
とで決定。
2020年はGlobal Conferenceの一環として同日開催した。

座 長 島田 菜穂子(ピンクリボンブレストケアクリニック表参道院長)
片岡 明美 (がん研究会有明病院 乳腺センター医長)
土井 卓子(湘南記念病院乳がんセンター長)

表 彰 奨 励 賞 発表者全員

特 別 賞 齊藤 千春『乳がん検診のすすめ』
阪本 美奈子『若い方にもがんについて知ってもらいたい』



[動画作成と実践]

- 啓発内容をわかりやすい言葉で伝え、10分程度の動画にまとめる。
- 知識を押し付けるのではなく、できるだけ語りかけるように感じるようにする。
- パワーポイントで動画を作成し、顔を出してナレーションを入れる。
- 動画送付の方法
YouTubeにて限定公開にし、友人にURLを送る。
- ・視聴は無理強いしない
本人の意思



齊藤千春さんの発表スライドより



阪本美奈子さんの発表スライドより

20周年記念特設サイトを開設



乳房健康研究会20周年特設サイト
<<https://breastcare20th.com/>>を設け、Global Conference on Breast Healthの
告知、プログラム、視聴画面設置、20周年のあゆみ動画、20周年へのメッセージ
や企業バナー等を設置した。
またM3社のサイトにもコンテンツを提供した。



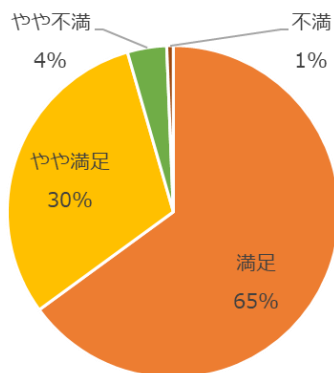
Global Conference on Breast Health アンケート結果

ご回答いただいた方のうち、ピンクリボンアドバイザーは76%を占め、また95%の方が満足感を得た結果となった。

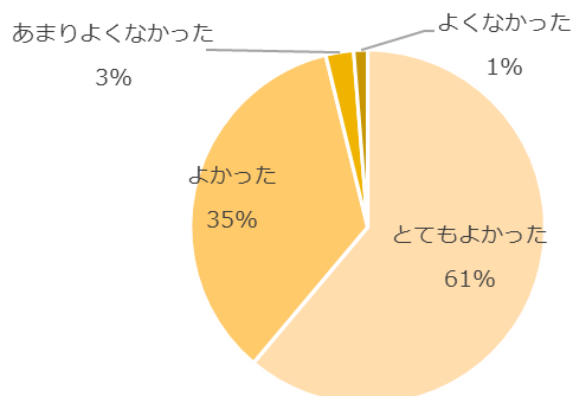


Our Challenge for 2030:
Stop the rise of breast cancer deaths in Japan

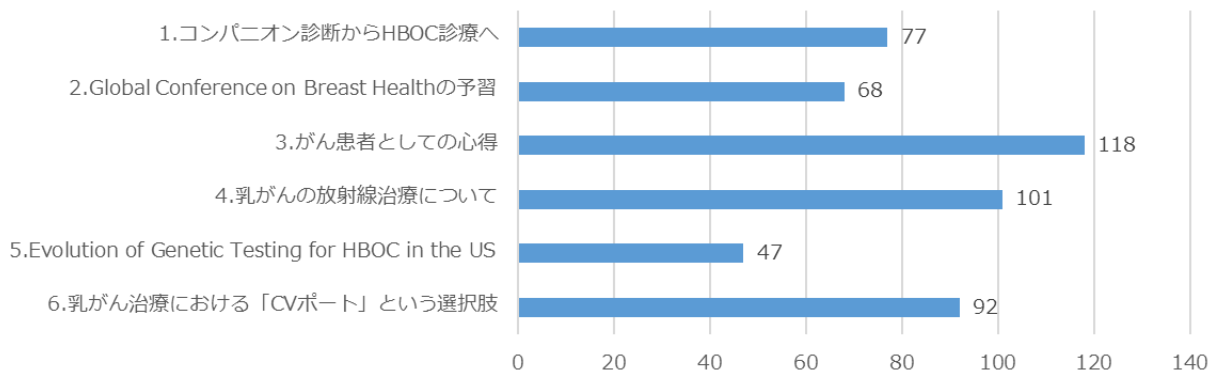
あなたはどの程度満足しましたか？



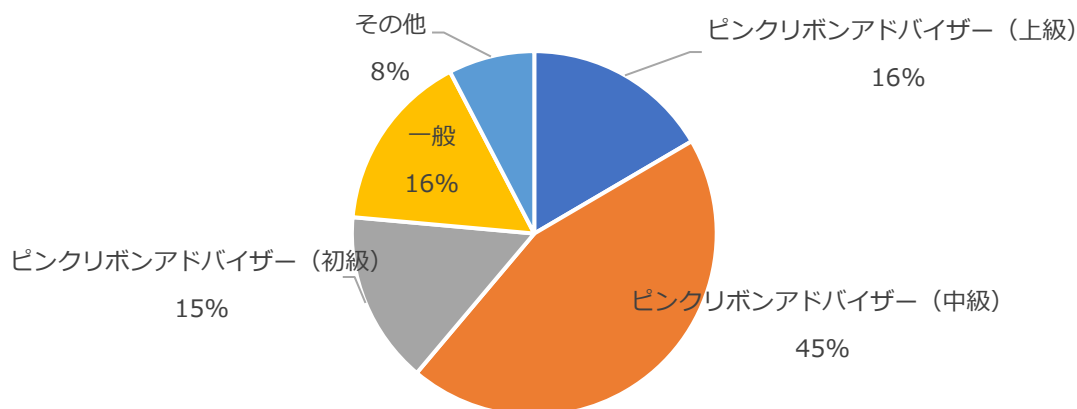
Global Conference「高濃度乳房、遺伝性乳がん、ハイリスク群(HBOC, etc.)のための乳がん個別化検診」を受講していかがでしたか？



企業セッションのうち、あなたが視聴したものをすべてお知らせください



本アンケートにご回答の方は、下記のどちらにあてはまりますか？



3. ピンクリボンアドバイザーによるがん教育プロジェクト

ピンクリボンアドバイザーによるがん教育プロジェクト 授業スタート

国民の2人に1人が生涯のいつか「がん」に罹患する時代が到来し、学校教育として「がん教育」の必要性が法的に定められ、がん経験者に外部講師として、がんを自分事として考えてもらう授業を実施。

文部科学省のガイドラインに沿って、全国にいるピンクリボンアドバイザーが自らの実体験を生活に密着した言葉を使いながら伝える授業を提供。

コロナ禍により、予定されていた多くの学校での授業が中止となったが、首都圏の中学校・高等学校5校で授業を展開した。

●助 成：花王グループ、株式会社ワコール、キヤノンメディカルシステムズ株式会社、株式会社アートネイチャー、アジレント・テクノロジー株式会社

●2020年実施校一覧

学校名	対象	人数
桜林高等学校	1、2年生	280
豊島区立巣鴨北中学校	3年生	38
富士見高等学校	1年生	240
東京女子学院中学校高等学校	中学、高校	265
駒沢学園女子高等学校	2年生	45



NHKおはよう日本でも取り上げられた。

【制作物・教材等】

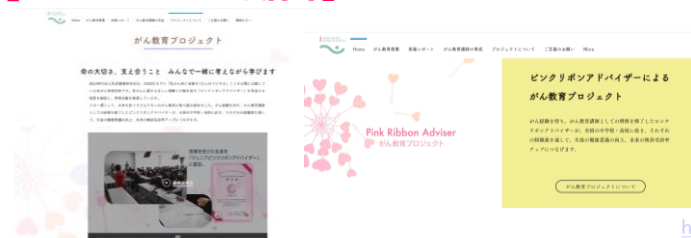
●説明スライド



●啓発冊子・認定証・メッセージカード



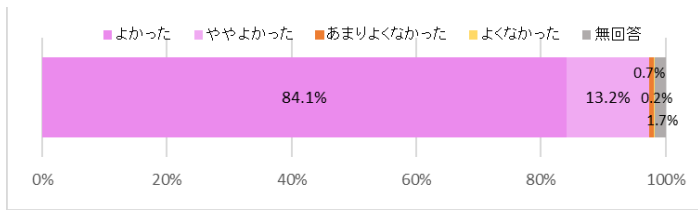
【ホームページ・動画】



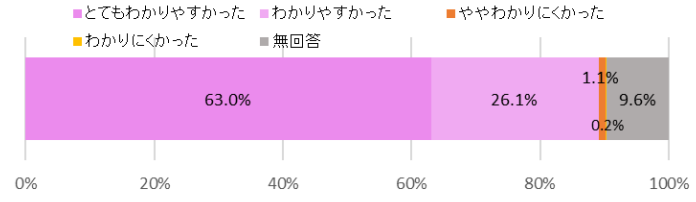
<https://www.cancereducation.jp/project>

ピンクリボンアドバイザーのことが、子どもたちの心を動かします

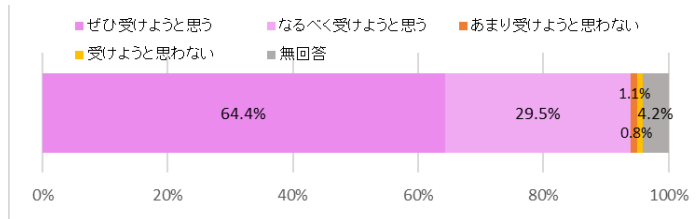
授業の満足度 97%



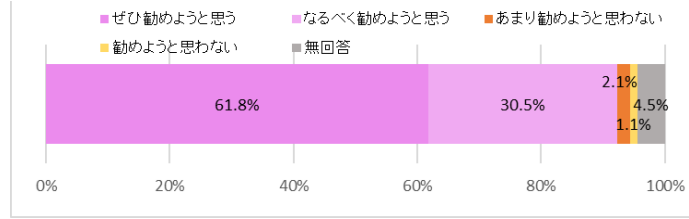
授業のわかりやすさ 89%



がん検診を受診しようと思いますか 94%



がん検診を勧めようと思いますか 92%



授業の様子と生徒の感想



がんは早く見つかることで
命を救うことができ、誰かに検診を
すすめることで、その人の命を守って
あげられることを知りました。また、私自身
ががんの人に対して応援したり普通に
接することが大切だと思いました
(中3)

検査をくわしく教えていただ
いたので、逆に不安がなくなり
前向きに大人になったら受けたい
と思いました。(高1)

がんについて詳しい方が話を
してくださるのは知っていましたが、
実際に経験された方の話が聞ける
とは思っておらず、より興味を
持ちました。(高1)

ピンクリボンアドバイザーがん教育養成講座

がん経験を持ったピンクリボンアドバイザーが、がん教育講師としての研修を修了し、全国の中学、高校で自身の経験を通して、生徒の健康意識の向上、未来の検診受診率アップに貢献します。今年は、京都と東京で2回開催。

- 開催日時: 2020年2月9日(日)
- 開催場所: ワコール新京都ビル
- 受講人数: 30名

- 開催日時: 2020年11月23日(月)
- 開催場所: TKP品川カンファレンスセンターアネックス
- 受講人数: 20名



4. ピンクリボンアドバイザー認定試験結果

第9回認定試験により、ピンクリボンアドバイザーは延べ16,000人超に

2020年12月に第9回試験を実施。今回はコロナ対策として初のWEB受験(初級)も採用した。また、会場受験を棄権した方の措置として、翌年度への振り替え受験を可能とした。

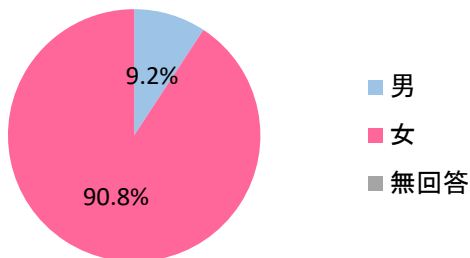
【初級】申し込み1,022名、合格者941名、【中級】は申し込み393名、合格者196名。

2021年1月現在のピンクリボンアドバイザーは延べ【初級】13,672名、【中級】2,806名、【合計】16,478名となった。

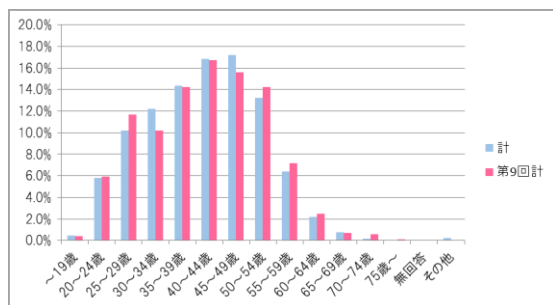


【第9回 初級合格者データ】

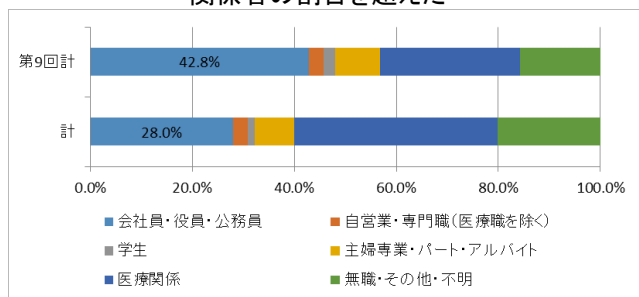
■男女比:女性が約9割を占める



■年齢:平均41.3歳

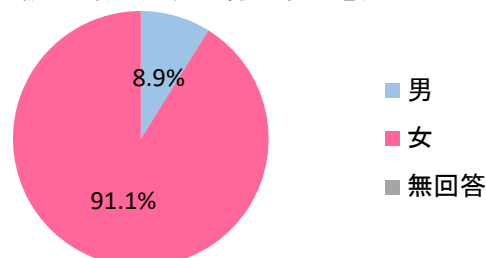


■職業:昨年に続き会社員等の割合が大きく増え、医療関係者の割合を超えた

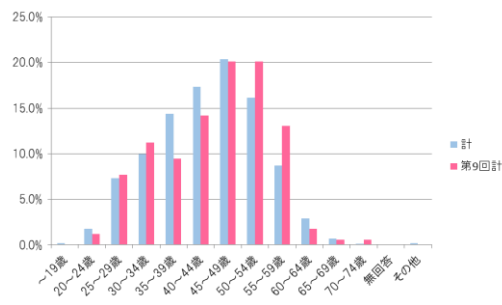


【第9回 中級合格者データ】

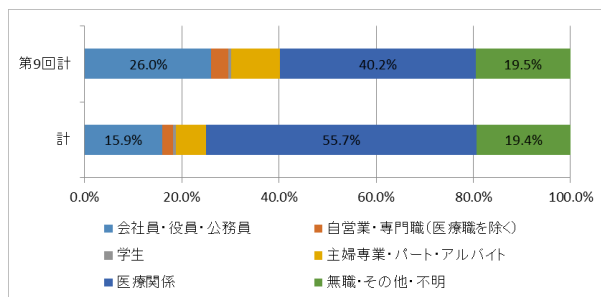
■男女比:初級と同様に女性が約9割近くを占める



■年齢:平均年齢44.7歳、初級より高め

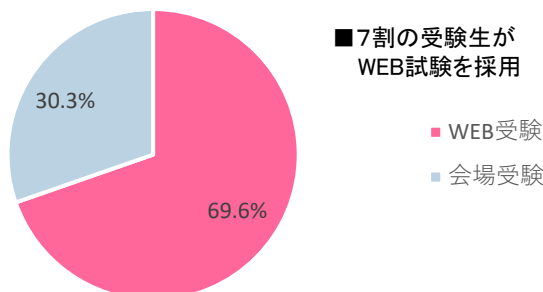


■職業:医療関係者が最も多いが、会社員等の割合が増えた



【初級受験者:受験場所比率】

■7割の受験生がWEB試験を採用



第3回ピンクリボンアドバイザー上級認定研修会

2019年に続き、4回目となる上級認定研修会を企画。今回はコロナ対策としてWEB開催に切り替え、予定を1月へ変更した。研修会では、昨年認定されたピンクリボンアドバイザー【上級】4名に、グループワークのファシリテート、運営アシスタントとして参加してもらった。ランチタイムには、受講者の自己紹介スライド(1人20秒程度)を上映し、好評だった。

- 開催日時:2021年1月9日(土)、3月14日(日)
- 開催場所:WEB、ZOOM
- 受講人数:16名

乳がんによさしい社会をめざして、情報を発信

日本で初めてブレストケアウォーク&ランを開催した乳房健康研究会。医療者と一般女性のコミュニケーション強化を図ることにより、正しい情報を伝達することを目的として、多岐にわたるイベントを開催・協力している。ホームページでは、乳がんの的確な情報を提供。さまざまな媒体からの情報提供の依頼や取材が増えており、乳房健康研究会の情報が信頼されていることがうかがえる。各種啓発ツールも多方面で活用されている。

ミニウォーク&ラン フォー ブレストケア ピンクリボンウォーク

乳がんについて考えるきっかけになってほしい…多くの人たちが気軽に参加できるウォーキング大会を開催してきたが、2020年はコロナ禍のため、開催を取りやめた。

第17回ミニウォーク&ラン フォー ブレストケア ピンクリボンウォーク2019



信頼される乳がん情報、充実した啓発ツール

乳がんの的確な情報の提供とともに、さまざまな活動を紹介しているホームページ。一層の活動参加を促す目的で9月に大幅なリニューアルを行った。ピンクリボンアドバイザーの更新やイベント参加費の支払い、寄付などがクレジット決済できるようになった。



【さまざまな啓発ツール】

乳がんの啓発ツールやチャリティグッズ(書籍、パンフレット、シャワーカード、DVD、切手、ピンクリボンバッジなど)を作成し、ホームページで販売しており、各方面で活用されている。

最近では、さまざまな企業がオリジナルのピンクリボン啓発ツール制作をおこなっている。

雑誌、新聞、テレビ、インターネットなどのさまざまな媒体からの情報提供の依頼や取材が増えており、乳房健康研究会の情報が信頼されていることがうかがえる。

■啓発リーフレット



■書籍



■シャワーカード



学会・研究会へ出展し、ツールを紹介

乳がん早期発見の大切さを伝えることにより、それぞれの専門家に乳がん啓発活動の一端を担ってもらうため、学会・研究会や各地の市民公開講座等へ出展。本年は学会がWEB開催やハイブリット開催になり、当会のブースの出展は叶わなかった。

ピンクリボンの裾野を広げる

正しい乳がん情報を広く普及するために乳がん啓発活動に関わるNPOや各種団体、企業との連携事業を展開。

各地のピンクリボン活動をサポート

全国各地のピンクリボンイベントに協力し、イベント共催、講師の派遣、ブース出展、啓発パネル貸し出しなどを行う。

	イベント名(主催者)
3月	YAMANASHIピンクリボンフェスタ2020 (株式会社テレビ山梨)
	女性の健康週間イベント(墨田区)
4月	つくばピンクリボンフェスティバル20 (特定非営利活動法人 つくばピンクリボンの会) (中止)
6月	YONAGOピンクリボンフェスタ2020 (中止)
10月	墨田区がんパネル展
	ピンクリボン by Cants @旧国立駅舎(認定NPO法人 ジャパン・カインドネス協会)



企業とのタイアップ

協賛や直接的な寄付に加えて、広報・販売促進活動の中で社会貢献活動を行う「コーズ・リレイティッド・マーケティング」による支援。乳房健康研究会は主としてコンテンツを提供。企業の告知力・コミュニケーション力により、正しい乳がん情報が広く普及していく。コロナ禍にあっても継続して実施する企業が多かった。

企業	内容
アスクル	オリジナル紙コップの売り上げの一部を寄付
川辺	ママバッグの売り上げの一部を寄付
花王グループ	海外での店頭活動、社内ネットで写真共有するフォト募金による寄
カネボウ化粧品	カネボウスキングロスウォーターの売り上げの一部を寄付
きむら食品	杵つきもちの売り上げの一部を寄付
QVCジャパン	ELLEとのコラボ商品の売り上げを寄付
ジェントス	ペンライトの売り上げの一部を寄付
ストライプインターナショナル	ギフトショップMaison de FLEURの対象商品の売り上げの一部を寄付
佐藤食品工業	鏡餅、切り餅の売り上げの一部を寄付
シグマスタッフ	派遣社員へ乳がん啓発。登録人数に応じて寄付
ジャパンビバレツジ	自動販売機の売り上げの一部を寄付
東京コカ・コーラボトリング	自動販売機の売り上げの一部を寄付
日本ホールマーク	母の日カードの売り上げの一部を寄付
鳴海製陶	フェリシータシリーズの売り上げの一部を寄付
ナショナルペンディング	自動販売機の売り上げの一部を寄付
三越伊勢丹	ピンクリボンバッジ運動による寄付
ミュゼプラチナム	薬用スモースキンコントロール ミルクローション モイストプラスの売り上げの一部を寄付
ワコール	ピンクリボンキャンペーンによる寄付



乳房健康研究会のあゆみ

2000年

- 5月 乳房健康研究会発足
- 9月 第1回セミナー「もっと乳がんを知ろう」開催(東京・プラザエフ)

■乳房健康研究会設立メンバー

2000年春、日本女性の乳がんによる死亡数低下を願い、4人の医師が集まり発足した。



野末悦子
コスモス女性クリニック
院長



轟 富士雄
順天堂大学医学部
附属順天堂医院
乳腺センター長



福田 護
聖マリアンナ医科大学
ブレスト&イメージング
センター院長



島田葉穂子
ピンクリボンブレスト
ケアクリニック表参道
院長

2001年

- 3月 『20歳を過ぎたらブレストケア』出版 プレスセミナー開催(東京)
- 7月 乳癌最新情報カンファランス会場にてピンクリボンバッジ運動スタート
- 9月 第2回セミナー「乳がん早期発見のための取り組み～女性医療と乳がん～」開催(東京・プラザエフ)
- 全国各地でピンクリボンバッジ運動を出展

■ピンクリボンバッジ運動

アメリカで乳がん啓発のシンボルマークとして広く知られているピンクリボン。このバッジを多くの方々につけていただくことで、乳がんの早期発見をよびかけている。



■出版、啓発ツール制作

『20歳を過ぎたらブレストケア』を出版以降、マンモグラフィの特徴や撮影方法などをわかりやすくまとめた「マンモグラフィQ&A」、乳がんの基礎知識をまとめた「乳がんQ&A」などの啓発ツールを制作し、さまざまなルートで活用していただいている。



2002年

- 3月 第1回ミニウオーク&ラン フォー ブレストケア開催(東京・国営昭和記念公園)
- 9月 第1回ウオーク フォー ブレストケア開催(東京・お台場)
- 9月 「マンモグラフィQ&A」制作
- 12月 東京ミレナリオ沿道にて「ピンクリボンプラザ」開設
- 10月～翌年1月 乳がん検診のバリア調査(一般女性)
- 11月 乳がん検診のバリア調査(全国自治体)
- 全国各地でピンクリボンバッジ運動を出展

■ウオーク&ランの開催

一般女性、乳がん経験者、男性も子どもも参加できるウオークやラン。アメリカで広くおこなわれているこのような乳がんイベントを日本で初めて開催した。サブイベントとしてマンモグラフィ検診や乳房健康相談、ブレストケアトークなどをおこない、楽しい中にも乳がんの正しい知識を持ていただけるような内容で、医療従事者と一般女性のコミュニケーションを深めている。



2003年

- 2月 内閣府より特定非営利活動法人(NPO法人)認証
- 3月 第2回ミニウオーク&ラン フォー ブレストケア 開催(東京・国営昭和記念公園)
- 4月 第3回セミナー「なぜ検診に行かないの？乳がん検診のバリアをなくそう」開催(東京・ヤマハホール)
- 5月 ウォークフォー ブレストケア 2003 大阪 開催(大阪・大阪城公園)
- 8月 「乳がんQ&A」制作
- 9月 ピンクリボンウォーク2003開催(東京・代々木公園)
- 10月 朝日新聞社主催「ピンクリボンフェスティバル」(東京・六本木ヒルズ)への支援
- 11月 第13回日本乳癌検診学会(群馬)にて乳がんのバリア調査報告ならびにピンクリボン運動出展
- 11月 米国の乳がん啓発団体「スーザン・G・コーメン・ブレストキャンサー・ファンデーション」とタイアップしてプレスセミナーを開催
- 全国各地でピンクリボンバッジ運動を出展

■乳がん検診のバリア調査

乳がんの基礎的な資料整備のため、企業、行政、団体のご協力をいただきながら、乳がんに関する調査の設計、実施、データの公表をおこなっている。2002～3年には、乳がん検診受診率がなぜ低いのかを探る「乳がん検診のバリア調査」を実施。全国3,247自治体と一般女性(東京、愛媛)への調査をおこない、自治体の乳がん検診の考え方や実態や女性たちの検診意識を明確化した。この調査はたびたびメディアでも取り上げられている。



2004年

- 2月 『すべての女性にプレストケア』出版
- 3月 第3回ミニウオーク&ラン フォー プレストケア 開催(東京都・国営昭和記念公園)
- 8月 三重県乳がんプロジェクトの一環の県民公開講座を支援
- 9月 マンモグラフィ講習会を開催(東京)
- 10月 関西国際空港10周年記念ピンクリボンウオーク関空2004 開催(大阪・関西国際空港)
- 10月 「チャートでチェック! 乳がん検診 私はどこに行ったらいいの?」
「プレストケアと乳がん検診についてお話ししましょう」作成
- 全国各地でピンクリボンバッジ運動を出展

■信頼できる乳がん検診情報の提供
活動開始から5年目、NPO法人化2年目の2004年はさらに戦略的な活動を本格化。「信頼できる乳がん検診情報の提供」をテーマに、乳がん検診受診率アップのためのさまざまな活動を展開した。制作物では「すべての女性にプレストケア」を出版ほか、検診施設の選び方のチェックチャートを作成しホームページでも紹介。



ピンクリボンウオーク関空で
日本初!ピンクリボン人文字



乳がん検診が初めての人への
ナビゲーションとなる1冊

2005年

- 1月 マンモグラフィ講習会を開催(三重、久留米)
- 3月 第4回ミニウオーク&ラン フォー プレストケア 開催(東京都・国営昭和記念公園)
- 6~7月「乳がん検診は今」調査実施(一般女性、都道府県、自治体、健保組合対象)
- 8月、9月 三重県乳がんプロジェクトの一環の市民公開講座(四日市)を共催
- 9月 プレスセミナーを開催、「乳がん検診は今」調査結果発表(東京)
- 11月 日本乳癌検診学会(京都)にて「乳がん検診は今」調査結果発表
- 11月 市民公開講座(京都)にて「乳がん検診は今」調査結果発表
- 12月 マンモグラフィ講習会を開催(東京)
- 全国各地でピンクリボンバッジ運動を出展

■「乳がん検診は今」調査
2002~3年の「乳がん検診のバリア調査」の時点から、わが国の乳がん検診をとりまく状況は大きく様変わりした。今日の状況と課題を把握する目的で「乳がん検診は今」プロジェクトを立ち上げ、日本の乳がん検診を網羅する4つの調査を実施した。



2006年

- 3月 第5回ミニウオーク&ラン フォー プレストケア 開催(東京・潮風公園)
- 4月 ITEM(医学放射線学会・放射線技術学会)市民公開講座(横浜)支援
- 5・6月 マンモグラフィ講習会を開催(鹿児島)
- 6~11月ノバルティス乳がん検診キャラバン(北海道・宮城・東京・愛知・大阪・福岡)
- 9月・11月・翌年1月 乳がん検診受診率向上実践セミナー開催(東京)
- 10月 ピンクリボンハッピーチャレンジ「ランチセミナー」(センチュリーハイアット東京)
- 10月 順天堂乳腺センター市民公開講座 支援
- 11月 ピンクリボンハッピーチャレンジ「文化放送ミスDJリクエストパレード」
- 全国各地でピンクリボンバッジ運動を出展

■乳がん検診をもっと身近なものに
2005年調査を受けて、乳がん検診をもっと身近に感じてもらうための活動に新たに取り組んだ。



ノバルティス乳がん検診
キャラバン



ピンクリボン
ハッピーチャレンジ



乳がん検診受診率向上
実践セミナー

2007年

- 2月 日本乳癌画像研究会(東京)に出展
- 3月 順天堂乳腺センター市民公開講座(東京) 支援
- 6~11月ノバルティス乳がん検診キャラバン(熊本・愛媛・岡山・北海道・山形・茨城・東京)
- 9月 プレスセミナーを開催、「一般女性意識行動調査」結果発表(東京)
- 11月 乳がん検診受診率向上実践セミナー開催(大阪)
- 全国各地でピンクリボンバッジ運動を出展

■乳がん検診受診率50%に向けて<一般女性意識行動調査>
2007年は、同年6月にがん対策基本計画に「乳がん検診受診率50%」との目標が盛り込まれたことを受け、NPO法人として実現に向けての活動の方向を探るための3度目の調査を実施した。



2008年

- 1月 マンモグラフィ講習会を開催(鹿児島)
- 3月 第7回ミニウオーク&ラン フォー プレストケア 開催(東京・日比谷公園)
- 4~11月 ノバルティス乳がん検診キャラバン(長崎、広島、高知、山梨、岩手、北海道、千葉)
- 5月 hideメモリアルサミット
- 9~11月 Over the ピンクリボン企画
- 10月 ピンクリボンブラザ@表参道ヒルズ、ピンクリボンブラザ@四日市
- 10月 「Breast Cancer Global Congress」に参加
- 全国各地でピンクリボンバッジ運動を出展

■「ピンクリボンブラザ」開催

検診受診率アップの為に、女性の日常生活に密着した場所での啓発が大切と考え、東京・表参道ヒルズ、三重・四日市北イオンショッピングセンターで「ピンクリボンブラザ」を開催。乳がんに関する正しい知識や、一人一人に合った情報を紹介し、乳がん検診・診療への行動を促した。また、乳がん検診や診療について気軽に相談でき、生涯にわたり健康のサポート役となる乳房の主治医「ピンクリボンドクター」を見つけるヒントを提供した。



2009年

- 3月 第8回ミニウオーク&ラン フォー プレストケア 開催(東京・日比谷公園)
- 4~10月 ノバルティス乳がん検診キャラバン(福岡、山口、奈良、三重、神奈川、香川、大阪、青森、秋田)
- 10月 ピンクリボンブラザ@新宿を開催
- 10月 マンモグラフィ講習会を開催(東京)
- 11月 日本乳癌検診学会(東京)で調査結果発表
- 11月 プレスセミナーを開催
- 全国各地でピンクリボンバッジ運動を出展

■「ピンクリボンブラザ@新宿」開催

検診に行きたいと思っている女性の疑問や不安を解消し、すぐに具体的に役立つ情報の提供を行うことを目的に、乳がん検診について知りたい内容をコンパクトに整理して提供した。

セミナーでは、乳がん検診の基礎についての講演と自己検診の方法とマンモグラフィの撮影方法のデモンストレーションに続き、中井美穂さんをゲストに迎えてパネルディスカッションを行った。

セミナーの様子は、新宿駅前の「アルタビジョン」でも放映された。



2010年

- 3月 第9回ミニウオーク&ラン フォー プレストケア 開催(東京・日比谷公園)
- 5月 ノバルティス乳がん検診キャラバン(大手町、新宿)
- 5月 マンモグラフィ講習会を開催(福岡)
- 5月 日本超音波検査学会(大阪)に出展
- 6月 日本乳癌学会(札幌)に出展
- 9月 PINK RIBBON GLOBAL CONFERENCE 2010 開催
- 9月 マンモグラフィ講習会を開催(熊本)
- 11月 日本乳癌検診学会(福岡)に出展
- 全国各地でピンクリボンバッジ運動を出展

■PINK RIBBON GLOBAL CONFERENCE 2010

設立10周年を記念して、東京で日本初のピンクリボンカンファレンス開催した。米国、韓国をはじめ国内外から最先端の講師を招き、全国から集まった32のピンクリボン団体、延べ500人近い参加者とともに活発な議論が交わされた。



2011年

- 4月 すみだピンクリボン コミュニティキャンペーン (東京・墨田区)スタート
- 5月 認定NPO法人の認可を受ける
- 9月 日本乳癌学会(仙台)出展
- 9月 プレスセミナーを開催、「一般女性意識行動調査」結果発表(東京)
- 10月 ピンクリボンウオーク in すみだ(東京・錦糸公園)
- 10月 日本乳癌検診学会(岡山)出展
- 11月 ピンクリボンでつなぐ絆プロジェクト in 南三陸(宮城)開催
- 11月 鹿児島撮影技師更新講習会、鹿児島読影更新講習会を開催
- 全国各地でピンクリボンバッジ運動を出展

■すみだピンクリボン コミュニティキャンペーン

ピンクリボン運動を継続・高めるための新しいスタートとなる2011年は、乳がん検診の受診率を上げるとする課題に向かって、行政、医療機関、各種団体、地域企業、地域メディアとともに協働する体制づくりに取り組む。



2012年

- 1月～ すみだピンクリボン コミュニティキャンペーン (東京・墨田区、前年より継続)
- 3月 第11回ミニウオーク&ラン フォー プレストケア 開催(東京・日比谷公園)
- 6月 日本乳癌学会(熊本)出展
- 9月 ピンクリボン運動自治体担当者会議
- 9月 ピンクリボンウオーク in すみだ(東京・錦糸公園)
- 11月 日本乳癌検診学会(沖縄)出展、すみだの事例を発表
- 11月 ピンクリボンカフェ in 郡山
- 6～7月 ピンクリボンでつなぐ絆プロジェクト in 南三陸 乳がん検診助成
- 全国各地でピンクリボンバッジ運動を出展

■すみだピンクリボン コミュニティキャンペーン
行政、医療機関、各種団体、地域企業、地域メディアとともに協働する取り組み[ピンクリボン エリアキャンペーン]を2012年も継続展開。乳がん検診受診率向上の成功モデルを完成させるとともに、墨田区のメニューと成功事例を全国に広める活動にも取り組んだ。



2013年

- 3月 第12回ミニウオーク&ラン フォー プレストケア 開催(東京・日比谷公園)
- 6月 日本乳癌学会(浜松)
- 8月 日本看護管理学会(東京)
- 9月 日本糖尿病教育・看護学会(横浜)
- 9月 プレスセミナーを開催
- 11月 ピンクリボンブラザ in 岩手 ～東北の女性の元氣とキレイを応援～
- 11月 日本乳癌検診学会(東京)
- 11月 医療の質安全学会(東京)
- 12月 第1回ピンクリボンアドバイザー認定試験
- 全国各地でピンクリボンバッジ運動を出展

■ピンクリボンアドバイザー制度スタート
検診を広げ、乳がんにやさしい社会を目指す「人」をたくさんつくることを目的に、2013年、「ピンクリボンアドバイザー制度」を創設。人と人のつながりを大切にしなが乳がん検診を推進する「友だちアクション」により乳がん検診啓発の輪を広げていく活動をスタートさせた。



2014年

- 3月 第13回ミニウオーク&ラン フォー プレストケア 開催(東京・日比谷公園)
- 7月 第2回ピンクリボンアドバイザー認定試験
- 7月 日本乳癌学会(大阪)
- 8月 マンモグラフィ工場見学 那須・鬼怒川研修会
- 9月 日本看護学会一看護教育一学術集会(新潟)
- 9月 日本糖尿病教育・看護学会(長良川国際会議場、他)
- 10月 日本看護学会 在宅看護(山形テレサ)
- 10月 日本看護学会 精神看護(キッセイ文化ホール)
- 10月 日本看護学会 急性期(パシフィック横浜)
- 11月 日本乳癌検診学会(ベシア文化ホール)
- 12月 第3回ピンクリボンアドバイザー認定試験
- 全国各地でピンクリボンバッジ運動を出展

■ピンクリボン友だちアクション

2013年12月の第1回認定試験を受けて、2014年2月に初のピンクリボンアドバイザー2,069名が誕生し、各地で活動をスタート。また、楽しく歌って踊りながら「自己検診」を啓発する、新しい参加型のツール『ピンクリボン体操 第1』を開発。人と人のつながりを大切にしなが乳がん検診を推進する「友だちアクション」により、乳がん検診啓発の輪が広がっている。



2015年

- 2月 ピンクリボンアドバイザー専用サイトをリニューアル
- 4月 第14回ミニウオーク&ラン フォー プレストケア 開催(東京・日比谷公園)
- 6月 第2回マンモグラフィ工場見学&活動実践研修会
- 6月 一般女性意識行動調査
- 7月 日本乳癌学会(東京国際フォーラム)
- 9月 PINK RIBBON CONFERENCE 2015
- 10月 ピンクリボンセミナー in Mie
- 10月 日本乳癌検診学会(つくば国際会議場)
- 11月 第1回ワークショップキャラバン(大阪/自己検診)
- 12月 第4回ピンクリボンアドバイザー認定試験
- 全国各地でピンクリボンバッジ運動を出展

■乳がん罹患者10万人時代に向けて
毎年、新たに10万人に乳がんが見つかる時代を迎え、私たち一人ひとりは何をすべきか。乳房健康研究会設立15年目となる2015年は、「PINK RIBBON CONFERENCE 2015」を開催。多面的な視点から2020年に向けてやるべきことを考えた。ピンクリボンアドバイザーは、地域のピンクリボン活動のリーダーとして精力的に活躍している。



2016年

- 2月 ワークショップキャラバン(福岡／自己検診)
- 3月 第15回ミニウオーク&ラン フォー プレストケア 開催(東京・日比谷公園)
- 4月 ピンクリボンと乳がんWebセミナー開講
- 5月 ワークショップキャラバン(東京／ピンクリボンマップ作成)
- 6月 第3回マンモグラフィ工場見学&活動実践研修会
- 6月 日本乳癌学会(東京)出展
- 9月 ピンクリボンアドバイザー【上級】認定研修会
- 9月 ワークショップキャラバン(札幌／自己検診)
- 9月 ピンクリボンでつなぐ絆プロジェクト2016 ピンクリボンプラザ in 仙台
- 10月 ワコール新ビル見学&ピンクリボン京都スタンプラリー
- 11月 日本乳癌検診学会(久留米)に出展
- 12月 第5回ピンクリボンアドバイザー認定試験
- 全国各地でピンクリボンバッジ運動を出展

■ピンクリボンアドバイザー【上級】誕生

乳がん検診や乳がんを取り巻く環境改善のために、教育、指導、社会活動を主導するピンクリボンアドバイザー【上級】の初の認定審査を実施し、47名が認定された。

2016年はピンクリボンアドバイザーの学びの場となるWebセミナーを開講するほか、各地でワークショップキャラバンを開催。



2017年

- 2月 ワークショップキャラバン(広島／患者サポート)
- 3月 第16回ミニウオーク&ラン フォー プレストケア 開催(東京・日比谷公園)
- 5月 ピンクリボンアドバイザーアニュアルミーティング2017
- 6月 第4回マンモグラフィ工場見学&活動実践研修会
- 7月 日本乳癌学会(福岡)出展
- 9月 ピンクリボンアドバイザー【上級】認定研修会
- 9月 ワークショップキャラバン(仙台／患者サポート)
- 9月 ピンクリボンプラザ in 大阪
- 10月 第2回ワコール新ビル見学&ピンクリボン京都スタンプラリー
- 10月 ピンクリボンウオークハワイ研修会
- 11月 ワークショップキャラバン(愛知／企画書作成)
- 11月 日本乳癌検診学会(徳島)に出展
- 12月 第6回ピンクリボンアドバイザー認定試験
- 全国各地でピンクリボンバッジ運動を出展

■アニュアルミーティング開催

ピンクリボンアドバイザー同士の交流と活動の活性化を図ることを目的に、1年に1回行うアニュアルミーティングを、2017年に初開催した。また、2017年は、米国ハワイ州ホノルルで開催される Komen Hawaii Race for the Cure®に参加することを目的とした、3泊5日間のハワイ・オアフ島ツアーを開催した。



2018年

- 2月 ワークショップキャラバン(広島／患者サポート)
- 3月 第17回ミニウオーク&ラン フォー プレストケア 開催(東京・日比谷公園)
- 5月 ピンクリボンアドバイザーアニュアルミーティング2018
- 6月 第5回マンモグラフィ工場見学&活動実践研修会
- 7月 日本乳癌学会(福岡)出展
- 9月 ピンクリボンアドバイザー【上級】認定研修会
- 9月 ワークショップキャラバン(仙台／患者サポート)
- 9月 ピンクリボンプラザ in 大阪
- 10月 第3回ワコール新ビル見学&ピンクリボン京都スタンプラリー
- 10月 ピンクリボンウオークハワイ研修会
- 11月 ワークショップキャラバン(愛知／企画書作成)
- 11月 日本乳癌検診学会(徳島)に出展
- 12月 第7回ピンクリボンアドバイザー認定試験
- 全国各地でピンクリボンバッジ運動を出展
- 通年 がん教育プロジェクト スタート

■がん教育プロジェクト スタート

学校におけるがん教育が始まり、外部講師の活用が推進されている。一方、ピンクリボンアドバイザーの中で乳がん経験者は全体の4割で、彼女らは、自身の経験を活かして啓発活動をしたい、社会に貢献したいという気持ちを持っている。がん経験者の支援にもなり、社会に必要な取り組みとして、2018年より「ピンクリボンアドバイザーによるがん教育プロジェクト」をスタート、2019年には授業が展開された。



2019年

- 2月 ワークショップキャラバン(名古屋／自己検診指導)
- 4月 第18回ミニウオーク&ラン フォー プレストケア 開催(東京・豊洲公園)
- 4月 ピンクリボンアドバイザーアニュアルミーティング2019
- 5月 ワークショップキャラバン(札幌／患者サポート)
- 6月 第6回マンモグラフィ工場見学&活動実践研修会
- 7月 日本乳癌学会(東京)出展
- 9月 ピンクリボンアドバイザー【上級】認定研修会
- 9月 ワークショップキャラバン(仙台／セミナー講師)
- 10月 ピンクリボンウォークハワイ研修会
- 11月 ワークショップキャラバン(広島／自己検診指導)
- 11月 日本乳癌検診学会(福井)に出展
- 12月 第8回ピンクリボンアドバイザー認定試験
- 全国各地でピンクリボンバッジ運動を出展
- 通年 がん教育プロジェクト スタート

■「ピンクリボンアドバイザーによるがん教育プロジェクト」

2018年より開始し、2019年には2回のがん教育講師養成講座を行い、57名を講師に認定。授業は首都圏の中学校・高等学校6校で実施し、高い評価を受けた。2020年度からの全国展開につなげる。



認定NPO法人乳房健康研究会 理事一覧

■理事長



福田 護
聖マリアンナ医科大学
プレスト&イメージング
センター院長

■副理事長



島田 菜穂子
ピンクリボンプレストケ
アクリニック表参道
院長



中村 清吾
昭和大学医学部
乳腺外科部門
主任教授



大野 真司
がん研究会 有明病院
乳腺センター長

■理事



阿部 恭子
東京医療保健大学
千葉看護学部
臨床看護学領域
教授



遠藤 登喜子
東名古屋病院
乳腺科診療医長



大多和 まや
聖マリアンナ医科大学
プレスト&イメージング
センター



岡山 慶子
朝日エルグループ会長

■理事



片岡明美
がん研究会 有明病院
乳腺センター
乳腺外科医長



栗橋 登志
しんゆりリボنزハウス
副会長



小泉 美都枝
聖マリアンナ医科大学
プレスト&イメージング
センター 診療放射線
技師



小林 茂樹
藤田保健衛生大学
医療科学部 教授

■理事



嶋森 好子
岩手医科大学
看護学部長



鈴木 久美
大阪医科大学
看護学部教授



津川 浩一郎
聖マリアンナ医科大学
外科学
乳腺・内分泌外科教授



土井 卓子
湘南記念病院 乳がん
センター
乳がんセンター長

■理事



西川 徹
昭和大学横浜市
北部病院 外科講師



畠山 雅行
労働衛生コンサルタン
トオフィス畠山



山内 英子
聖路加国際病院
乳腺外科部長・
プレストセンター長

■専務理事



高木 富美子
認定NPO法人
乳房健康研究会
事務局

■監事

中原 敬和

乳房健康研究会を支援するプログラム

乳がん検診を受ける、早期発見の大切さを伝える。ピンクリボン運動に企業・団体や個人が気軽に参加していただくために、受診率向上を目的としたさまざまな活動へのサポートプログラムを提案。主なプログラム5種類について、特徴や具体的な支援方法をまとめた。

ピンクリボン サポート プログラム

■ピンクリボンプレストケア募金

当会の年間を通じた活動全般を支援

○支援方法：寄付金や募金箱・チャリティーオークションなどでの募金を寄付。

■ピンクリボンバッジによる寄付 <ピンクリボンバッジ運動>

ピンクリボンバッジによる早期発見啓発活動とピンクリボン運動への寄付を一体化

○支援方法：500円以上の寄付につき、1つのピンクリボンバッジセットを贈呈。

■協賛

調査、イベントなど大規模な主催事業に対する協賛

○支援方法：協力企業・団体へのお願い事項を確認のうえ、事務局にお問合せください。
事務局が企画内容と協賛メニューを提案。



■ピンクリボンパートナー

当会とともにピンクリボン運動による社会貢献を始めたい企業・団体が気軽に利用できる、1年更新のプログラム。

ピンクリボンパートナーとして登録いただくと、ピンクリボンマークやロゴマーク、啓発ツールなどをご提供。

【寄付額】年間20万円以上の寄付、または35万円以上のピンクリボンバッジによる寄付

○支援方法：協力企業・団体へのお願い事項を確認のうえ、ピンクリボンパートナー申込書を提出ください。

■タイアップ

企業・団体がピンクリボン運動による社会貢献を実現するためのタイアップ企画。企画段階からのオリジナルプログラム開発や企業・団体の提案企画の実施など。

【タイアップ例】

①啓発キャンペーン 女性顧客啓発のためのオリジナルツールの作成、当会啓発ツールの活用

②商品販売キャンペーン ピンクリボン運動への協力を表示した商品の販売、売上金の一部を寄付

③応募キャンペーン 懸賞応募はがきなどの枚数に応じた寄付

④ポイント提供 顧客にポイントを加算、顧客がポイントを利用して当会に寄付

⑤イベント開催 チャリティイベント開催による寄付

⑥クリックキャンペーン HP上に乳がん啓発ページを作成し、クリック数に応じて寄付

○支援方法：協力企業・団体へのお願い事項を確認のうえ、事務局までお問合せください。

2020年 主な協賛・寄付・啓発ツール活用法法人および団体(50音順)

アスクル株式会社	川辺株式会社
アジレント・テクノロジー株式会社	キャンメディカルシステムズ株式会社
アストラセネカ株式会社	協和キリン株式会社
青山眼鏡株式会社	北群馬信用金庫
医療法人健仁会 益子病院	群馬トヨペット株式会社
医療法人社団桜蘭会	ココロホトトラスジャパン株式会社
一般社団法人日本エステティック協会	コニカミルタ株式会社
一般社団法人日本家族計画協会	公益社団法人日本プロテニス協会
岩見沢ロータリークラブ	サライ株式会社
宇治武田病院	さいたま市西区区役所
エイツーヘルスケア株式会社	サウ食品株式会社 端数クラブ
エーザイ株式会社	佐藤食品工業株式会社
おおたしろクリニック	財団法人神奈川県同労衛生福祉協会
株式会社アートネイチャー	JR北海道ホテルズ株式会社
株式会社アイプラネット	ジェントス株式会社
株式会社アデランス	春秋航空日本株式会社
株式会社うさぎもち	松月堂
株式会社カネボウ化粧品	粧美堂株式会社
株式会社クライムメディカルシステム	住友重機械工業株式会社
株式会社グローウイングス	ソフトバンクペイメントサービス株式会社
株式会社コヤマドライビングスクール	TAD三芳株式会社
株式会社サンピオーネ	第一三共株式会社
株式会社シグマスタッフ	高木ひろみ乳腺レディースクリニック
株式会社シッパス	大丸松坂屋
株式会社ジャパンコミュニケーションズ インステイユート	大鵬薬品工業株式会社
株式会社ジャパンビバレッジホールディングス	第一生命保険株式会社
株式会社ストライフインターナショナル	武田薬品工業株式会社
株式会社バリアンメディカルシステムズ	中京テレビ放送
株式会社ミューゼプラチナム	中部ガス不動産株式会社
株式会社メディカルコンサルジュ	東京海上日動フアンリティーズ株式会社
株式会社メデコン	ナチュラル株式会社
株式会社ユニテッドアローズ	日鉄ビジネスサービス九州株式会社
株式会社リハelta	日鉄住金ビジネスサービス八幡株式会社
株式会社レオパレス21	乳がん患者の会 ぴんく・ぱんさあ 沖縄
株式会社ワコール	兵庫ヤクルト販売株式会社
株式会社ワットマン	ピンクリボンブレストケアクリニック表参道
株式会社一蔵	プリモジャパン株式会社
株式会社社会保険出版社	富国生命保険相互会社
株式会社千趣会	ポーラオルビスグループ
株式会社大丸松坂屋百貨店	まつもとクリニック
株式会社大京	三崎商事株式会社
株式会社中北製作所	明治安田生命
株式会社東京ヴァンティア	モイスティー直方・浅川サロン
株式会社日本ホールマーク	YUIKU株式会社
株式会社良品計画	有限会社スタイルバイク
花王株式会社	他、多数